

日本居家秘用卷六目錄

○紙細工

け部けぶの屏風びやうぶ襖ふすまのころやう表あは
 具ぐのころやう油あぶら書ま相あひま乃仕立しだてや
 形かたち本ほん乃の柄えらやう唐紙からし裏うら乃仕立しだて
 やう押絵おしゑ色紙いろし短尺たんせき乃押おしやう
 紙かみふ地ぢ乃仕立しだてやう絵ゑ装まれれ味あじ氣け
 ころやうけけくらくらいいやう床とこ乃張はり
 やう砂すな子ごままれれやう泥どろ乃けけやう
 紙かみふ卦くわい引ひきき法はふ乃の押おしやう
 書物しよぶつ乃扱あつかひひたるたるをを並ならべべやう
 糞水ふんすい地ぢ粉こな乃のととののへへやう雨あめ澤さわ
 子こほほらら乃のころやうころままをを止とめめ
 て一切紙細工いっせいかみこ乃の筆ふでああららののをを



日本居家秘用

卷六

紙ハ厚れひとくくろのよ紙
 合せ紙おてとろ是紙とろか
 くらといふありとろて切次小浮
 たり紙とろ耳むろふ粘り
 骨片はる紙浮たり乃よ紙
 右強をせしめ下此一版紙
 ころて屏風紙運と海立て
 ころあり浮をせれと紙とろ
 あり是あて裏表六返あり
 裏ハ浮強乃と二返をりて
 粉地をせしめ

▲粉地乃方 白亞 百日 墨 一五方
 右細末一水とて移り粘り
 八て引角一次小海蒞維小墨
 紙くくて模紙付角一
 ▲蝶尾寸法 五尺乃屏風あり
 八と下紙五寸ありて中を四ら
 ふよりねとを六尾あり大小
 ふよりて又異あり
 ▲縁除方 古方乃一文字通
 としやを先墨縁をはりて
 紙を端まで通紙あり角

流孔角とし六隅かゝ隅へ
切合まらんあつたるゆへふ出
合ともしああり

△屏風縁寸法 高さ五尺六寸
乃時八縁乃廣さ一尺七八分
但小縁ともあり小縁八二分
寸三分まであり高さ四
尺五寸縁一尺四寸五分横三
尺五寸八九尺乃時八二寸六
分あり

△屏風押絵 先と下と定む

家内押絵紙を屏風の一間
縁より中より一方より金
木をとり小より七と二つ下
と定む但上乃十分一紙下亦
角より横乃寸法八紙小を
あやう下を二つあつたを
ゆ又あ乃端の一枚入ねの
を他と回すゆへて堅縁の方
を狭くし家あり

△色紙短尺画押法 先冠紙
定め次小履を定むた衣紙

足合せて押あり是は角と
 の四方乃角は定むらと
 ありあり又二つあり合せて押
 を重しり四方よりなりとも
 一又三五七八半といふと一ツ
 は押も色紙短尺計方画未
 を押交家とれなりと下丸衣
 の寸法は逆りて四隅より押
 るがめて中ハいふや中とす
 一四時乃哥のち終へ御製
 の哥絵と真草乃とて

あり墨絵ハ五位小押あり
 二つこらあり押あり乃寸法
 移りて遠のぬやうふと
 一の寸乃半分は用ひて分札
 と色紙と此間の寸小定むら
 一と下の寸法ハと乃寸の半分
 を履の寸と一との十分一は
 加わらう是は好事の人の
 秘事あり
 表具作方 先表具す
 此相書おまわりハ水を引て

わりの強ふわけに金繕乃裏小
 水紙はけ下地の裏紙を去
 て糊紙を用ひて腐粘少て
 裏おし絵乃表紙外中
 て飛強小付金を彫て鉅
 よく切紙一文字紙付中縁又
 上下をつち袖挟乃紙を片
 止しぬ紙ゆて裏を打強て
 別中縁乃通りより裏乃
 方へ引かかす風帯をほけ
 乾し金又裏よりこし水

をひ紙板乃こして志八を紙
 やう小乾紙より剛毛少てよく
 ろで四方小粘紙は多飛強
 小より付四五日紙経てこか
 してぬ指紙たらこり鬼紙
 ぶて裏を扱ほ小袖と標本
 を付てわかを紙打緒強つ
 ろろ口付あり○巾表具の時
 ハ五端を折返して好無裏
 を打あり○降風帯は一
 字と同色あり付風帯ハ

中縁ちゆうえんと同色あり

腐粘くすねり作方 各月とらづ膏かうをぬ

て水みづとくぬ糸いとをゆり壺つぼ小

いさ云とら中ちゆう小せう羊やううづここ並なて日

用もちとぬ救きう年ねんを強つよてとく

腐く下した泥でいて片かたううむむ片かた粘ねり紙し

物ものぶぶ大たい幅はく物ものは粘ねり了り

を小せう幅はくははららははくくととぬぬらら

急きゆう用もちは粘ねり室むろふふりりあり

軸物ちゆうぶつ巻切方 先まへ軸ちゆうををぬぬ切き

少せうてて至いた奥おく乃の紙しの終はつりり不ふ

をを粘ねり乃の紙しははくくああははせせねねてて折お

目め小せう粘ねりをを付つてて粘ねり小せう書かきてて別べつ

小せう紙し友とも紙しのやうやう小せう小せうくく切きををら

紙しををぬぬてて小せう紙しをを堅かたくく書かき付つ

て粘ねり紙し一ひと方かたををらら粘ねり入いててははよ

可か一ひと分ぶんををらら内うち小せう押お入いててはは

粘ねり乃の小せう紙し目め高たか少せうてて切きて

又また一ひと方かたももかかくくれれををくくてて何なに

ととをを記し方かたよりより粘ねり小せう紙し厚あつき

出いしし引ひ後ごてて是こ小せう粘ねりをを付つ

て粘ねりりりくく

和歌集必用六

七

毛邊紙小裏紙打方

先裏をうつが紙をおし
羽重少くして浮石よて紙乃
端をまわりきりてくひき紙
紙乃ぎくもぐく四方とも
ふわくのぎくし毛紙麩の紙
ふてはだてきき至汲小唐紙
乃裏より水をお刷毛よて
湿しきわぐくし又は紙を
紙を唐紙乃横乃幅ふく
雁ふ本紙より廣く切は紙

くの仔板乃よたに唐紙を並
表を下ゆて刷毛よて表
る紙やうふあではち板紙め
切重より紙をおて表を下
小あし唐紙乃裏小あ板
裏紙乃余りしふ下を一方板
小粒を引て針並粒を針さ
下ハ二重小あぐくせて板乃紙
へ引かへし板裏紙乃表小粒
を引てよ下れ角をたあ乃
子よてとり紙乃ぎく唐紙

乃よふかづせうけてよより水
刷毛少てをではくろありひ
引うし中耐るに倍ありもふ
甲はくあまは志りにありふ
よりずいんもごろをやう
ふ息乃田面ふねらにやう
あふあ地とらふ引かろを
と如けますひよらあらく
とすたよをて又うの次と
地乃おとく次すおおとをす
ぞにおりて他乃取へかけて

乾一をありうの好製水と
して日用小使命一但併知
乃と強ま地をせごして
とらる

▲製水乃法 黄明膠十五

明礬各五水一升 初小膠

を水中小泡して柔ふあり
ら付念相の中へ焚湯取
いとくもをとらあぐかれ

せ膠乃とけら時期石の
粉をいきてかれを冷く

て好くけめて唐紙小引へ
 又地しめておきしる時
 の中裏乃耳小粘を付て
 縦強小引付中風を吹
 入るもよし。唐紙一枚小
 水一合のほそく又依れひく
 ハ七勺屏風より五勺まで
 〇縮地小引より水紙
 三倍あつて引ぬ
 ▲毛邊紙縦張の方
 膠地をこする唐紙の表小

水を引て返して表裏のまじり
 小粘紙はけ又その真中水
 を引ておき小てれくわり
 ころ小押付水よりあてあて
 ほそくあり但紙をわし
 切て裏紙の縁のた乃堅れ
 膠小付あつて好く時小是
 より真をひくあり強て好
 小より切事ゆり心をきく
 〇
 ▲繪紙乃類様氣取や

蒸去糟を煮しうの汁をさ
 けし至表具紙とりて板の
 とにひらげ並それよふ介
 の紙をぬきてくけよてと
 つくく五六夜わちて乾
 氣か〜蒸氣さる

▲繪紙の思跡乃ちぬきて
 をはくらしやハえ板の上
 ふ別乃紙をはくらしぬ紙
 本紙より六幅を廣くして
 並水を引てく板ふかて

付うのとにほくらふぬ紙本紙
 を表を下ふしとのせよ
 して水を引よく蒸氣さる
 ふかて封裏おあハくま
 可らら封裏お乃紙を志づ
 ふ取さる本紙やづれぬら
 不あバ類紙ふ粘を付と
 けくらひお月あは紙と細
 くそらて粘を付て高へ

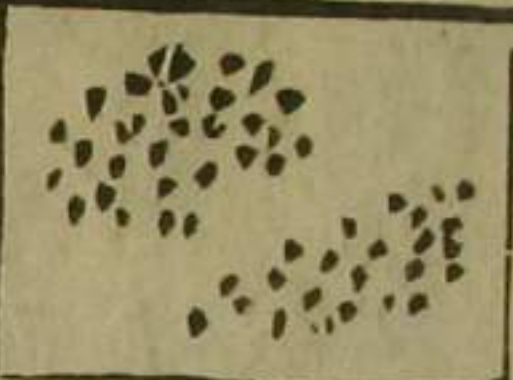
是紙わさふひとひ
 又れ月 ぬ新ふ裏おして乾
 いづら

戸付彰る紙



○微塵砂子ハ尚篩の底
紙に積りてそよりまろりの

皮毛紙帯の如く振へておろし



○とろろハ篩の底紙
竹篩のごとく目紙こ

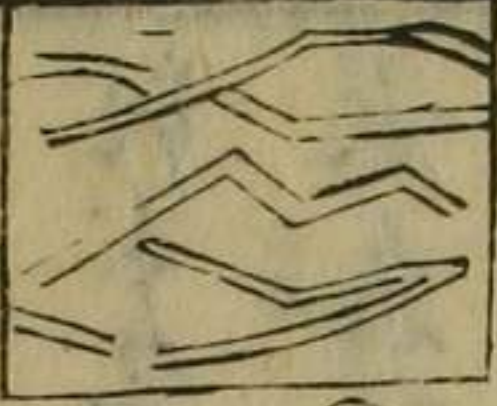
すしきくろ紙入茶葉お

てしきわらせり一返り

り紙を二返と右の

ごとく茶葉おろしわら

り



○の紙筒ハ篩盤おのせて
竹刀おろし細くまろろ

あきまろろ紙おろし

○控板砂子ハ山乃形紙ハ

雲よりなれ大楯の控

様紙仙舟て合やろ紙

あきまろろの形紙ハ山乃形砂子

まろろ紙ハ高きまろろ

あきまろろの雲よりおろし筒

あきまろろまろろ

▲金銀乃泥を消法 先肌

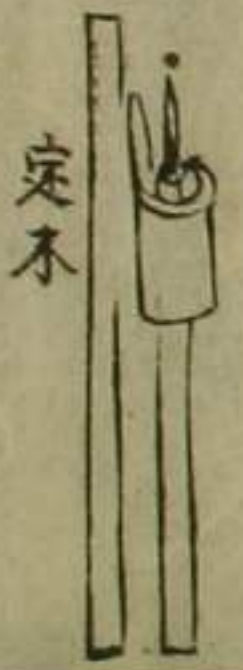
のし紙を念ふ箇を五十枚又
 八百枚二百枚と入膠水カウハにて
 かくくふし指サシ乃ノををて志
 かく神カミふまうけしてけし
 大のふけして水を入神カミふ一
 面ウラふ付ツく紙一雨アメふ流ナひしせい
 させて水張ミヅハきつふふ
 すと火ふかす空膠水カウハをを加へ
 手をとくふたをを水乾カ
 死シる時ハ膠水カウハを少オけ加へ
 水カ死シる時ハ火ふけいカくカ

かくれおとく指サシ乃ノををて志
 付ツくカをを終ハるはカ乃ノここ
 水を入カさせ魚イサ上カ水カをを
 捨スるカふはカをを水カ氣カ
 少オある紙カミ等カふてカ死シあカけは
 うカたカまカとカ死シ少オ火カふカ
 け乾カしカ星カるカ

▲紙カミふカ引カまカるカ法カ 先カ卦カ幅カの
 分カ寸カ張カ梅カあカ別カ乃カ紙カふカ下カ張カ
 付カ是カ後カ卦カ引カるカ紙カふカ何カて
 上カ下カふカ計カめてカ救カ救カふカはカ死カ通カ

一々中紙は糸引きたるは成目
 南よ一**定本**成りて卦を引
 び白卦ハ竹篋ふて引る
 一**墨卦**又ハ泥ふて引るは
 筆ふくす先別乃紙ふり
 てころそと筆乃毛箱括ひ
 そろ紙うかひて好引る
 卦筆ハ唐杖あは毛ふて細
 く**繕**令一**真**した竹を細く
 けざり毛をそへて中あり但
 右乃心ハ**帯**乃筆乃心乃ごと

毛ケ先サよりウ少一ホりぞけて
 繕ツる一ツ板卦ケを引時ハ
 かくれおとくありさやを志の繕ツ作を
 以は介卦筆乃神乃先ふと
 めさや乃先の切あす一ホら方せ
 先乃おとく定本ふそへ筆ケれ毛
 先卦ケ箱ハふ南ハやふ
 かくれガぞく一ホり引る
 ▲折本成り法 先紙をほき
 かく繕ツ繕ツるハ糸ハを一夜ハかく
 朝ハ一ホとくかりハしハり時ハ幅



一寸ふしむる紙と紙をふしむる紙ハ
 折形を六すあして 〓 かく
 乃ぞくくあ紙乃表を下り
 て折方本紙面折目を付り
 但初小紙乃下乃方を定本小
 てゆぐを紙やうふ折そらへて継
 ぎ折目を付り附下乃方小
 て括へて折目を付るへて續きで
 かくれざく折目紙付板折目と
 口乃方より右乃方ふてたえひ
 ら紙竹篋ふてまのころふ口を

子と紙をより好乃方を小口と
 折るをとりまを取めたる乃子
 ふて折目紙付るへかく乃こと
 色折れりて板好乃方乃折
 目ふき移るへ刷毛よて水
 を引てちちへお乃方乃折目
 を板ふ面よりころをやりころふ
 折て紙やより合やうふを折て
 して折れ付るへ小口をよりひ
 ころ折ある板乃よふのせよ
 ようとある板乃類をよ

若葉紙用紙

紙

押をわけ乾くまで押し
をかける時ふじのしやうまじ
やうふじを

唐本小書乾打止る法

唐本小書乾打止る法 唐本小
書乾打止る法は唐本小書乾打止る紙
を板乃とふひらけねる麩粉
をうまきと乾く紙一面小刷毛
よて乾くとのとへ本紙を一枚
表をよあけて乾く真中
より乾く刷毛をねる一
方へよあけてやうふあて付へ

又うの上へ書打紙をかき紙粉
を乾く右乃おとく本紙をひ
きげあて付る一此紙と一平
紙をねるよて右乃おとく書打
して好一枚は書打紙乃端
をとりにて棹或ハ細引をひて
里たりふうけて乾く紙
乾く時小口紙打て石盤ふ
ておる

一和奉此册ふ浸りたるは太
派桶乃糞ふ水を入塩う

加へ書籍の表紙をまづ
水おぼしてまづ潮を洗ひ
出し板の類もて下より授
てはく押をかけ並りの好
干がくく乾たらしめ
よてむくなくうそはまの
ぼくらのびり

▲古本の小口よれをまづ
根乃まがりけりそ
▲唐本よれおひく
まづ紙を用ふ破は換

しそちるまれおほし初お海
薙汁乃うまれを
付まがりまづ唐本
はくらうは海薙汁を用へ

▲紙帳を造る法
二方の端のゆるやう
相重ふして粘を付紙帳乃
廣紙をわりの四方と天井
紙を縫る今一板天井乃紙を
まづよ幅を極り四角

▲皮筋の糸を粘りてまらした
糸は筋乃喰ふもの糸粘り中
へ菊弱玉代り加ふる筋
くは又電乃皮は少く加
ふるもよし

▲沖代引より雨障子乃やぶれた
糸はほくら少粘りざらた
粘の中へ生姜乃志のり汁を
少加ふる粘り付てまら
まら

▲雨障子 大根或はぶれ志

何り汁を紙引とれはひり
より又蠟を粘りば三甲のハ
換り但馬より新ありて
石よりて用ひわす

▲木目紙 枚板乃木目あき
やう小控様ねりられをどと
め竹乃より皮は板をよれ
ハ木目乃不ハきくある皮好の
漆汁を刷毛ふて引書板を
摺ぶくふよりる今一木目よ
る紙ふりほり

▲モリ濃粘乃法 薇乃粉コをよれ
加減ウヂ小粘ノふそりさゆし並お
温アツくある時濃ユを少ほ加へ
ひくまぐまぐそのむひを
一度ふ袖ヤより濃シはおほくつ
是月コノ初ハツがごとく又冷ヒて好も
濃ミと初ハツがごとく余オり糞オれも
濃乃氣ノよくくあるうのちど
伏考フシカつる！

▲シヨクハ書畫乃類一切紙小油の付
くろくは去ク念ンをふぞ粉コふ

しよくつりて糞オれを厚アツき五
分ハ月ツキとよ下シふ並ナはよく押オを
かけ一夜イチヤ並ナ油アブよくぬら
但タ不フ乃紙ノシを一枚ヒツ並ナを右
乃粉ノコの並ナ付ツざんやうふす
し汚ケら紙シ乃敷ノシある時トキ何ニ
牧マと在アれおとくあしてまマ粉コ
を並ナゆり又マ滑ス石シ炭ツ用ヨ家
色シ

▲マン蔓珠沙華乃根ネを煮ユて
よく正マるシ表ヒ具グ粘ノ用ヨ也シ

ばやうをふしとて表具換^{ひか}は
まう色^{いろ}粘^{ねり}を^まま^まに

▲張^{ちやう}床^{とこ}を^まれ^ま強^{ちやう}く^く方^{かた}紙^し久^くく^く死^し
を^ま終^{しゆう}ま^まは^は虫^{むし}を^ま心^{こころ}粘^{ねり}乃^の中^{ちゆう}高^{たか}
業^{わざ}乃^の表^{あへ}汁^{じゆう}を^ま加^かふ^ふ直^{ちゆう}直^{ちゆう}は^は虫^{むし}状^{じやう}
生^{なま}を^ま紙^しとい^いり



日本居家秘用卷六終

